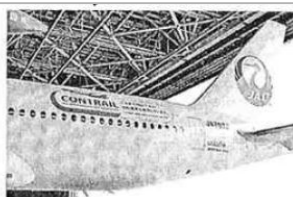


CO₂濃度計測機にロゴ

世界で初めて航空機で大気中の二酸化炭素(CO₂)濃度を連続測定している日本航空の機体(ボーイング777-200ER型、機番JA707J)に、専用のロゴ(横7.7㍍、縦2.7㍍)が登場した—写真。同機は7月25日から東京・羽田とパリ、米サンフランシスコ、香港間の就航を始めた。

このプロジェクトは「CONTRAIL」と呼ばれ、2005年に国立環境研究所などの提案で始まった。「各国の人々の温暖化問題を認識するきっかけにしたい」(日本航空)と、ロゴには「この飛行機は上空のCO₂を観測しています」と書かれている。

他にも3機に観測装置が搭載



され、これまでに日本と世界55都市を結ぶ延べ6000フライトで1万件以上のデータを収集した。森林火災が発生した熱帯林の上空を飛行した際にはCO₂濃度が通常の3倍も高くなっていることなどを突き止めた。

国立環境研究所の町田敏暢室長は「欧州でも同様の観測が今年から始まる。このロゴが端緒となって、航空各社の観測が進み、謎が多いCO₂放出・吸収源分布の解明につながってほしい」と話す。【田中泰義】

毎日新聞社提供

【特別塗装機全体のイメージ図】



【特別塗装部分のイメージ図】



この飛行機は上空のCO₂濃度を観測しています。
In-Flight Observation of Atmospheric CO₂.